

これは、2008年9月5日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

Press Information

ダイムラーとRWE、電気自動車の共同プロジェクト 「e-mobility Berlin」を発表

2008年9月10日

- ・ 100台以上のメルセデス・ベンツ、スマートの電気自動車とRWEによる約500ヶ所の充電スタンド
- ・ 環境対応、ユーザーフレンドリーなコンセプト
- ・ 2009年末に導入開始

ダイムラーAG(以下 DAG)とドイツの電力会社RWE AG(以下 RWE)は、環境に優しい電気自動車の世界最大規模の共同プロジェクト、「e-mobility Berlin(イーモビリティ ベルリン)」を発表しました。導入される電気自動車は、排出ガスを出さないため環境保護に大きく貢献し、化石燃料への依存を軽減します。この取り組みでは、革新的な技術から充電インフラまで、電気自動車が効率的に利用できるために必要なものがすべて用意されます。DAGは、メルセデス・ベンツならびにスマートの電気自動車100台以上を提供します。RWEは充電インフラの開発、設置、運用を担当し、約500ヶ所の充電スタンドを設け、電力供給とシステムの管理を行います。料金の支払いは、専用車載通信システムと充電スタンド間でデータのやりとりを通じて行われます。この分野を超えた連携によって、2つの主要な業界のノウハウが集結することになります。なお、このプロジェクトは、自動車の未来という観点での重要性から、ドイツ政府の支援を受けます。

DAGのディーター・ツェツェ会長は、「この共同プロジェクトは、政府、エネルギー供給会社、自動車会社が1つの目的に向かって協調して取り組むことで、何が達成できるかを示すこととなります。私たちの考え方は、電気自動車と充電インフラを組み合わせたソリューションに基づくもので、電気自動車をさらにユーザーフレンドリーにすべく取り組んでまいります」と述べています。

RWE AGのユルゲン・グロスマンCEOは、「RWEはドイツ最大の電力会社としての資本とノウハウで、ダイムラーと力を合わせ、気候保護を推進します。『e-mobility Berlin をすべてのお客様に』という考えのもと、当社は個人向けの便利な充電システムを家庭、職場、公共の場に設置するなどの包括的なコンセプトを展開してまいります。例えば、価格保証、エコパワー料金などといった形でお客様が利用しやすい料金体系で提供していきます」と述べています。

DAGのツェツェ会長は、「ダイムラーは、クルマの未来はグリーンなものであり、ドイツの産業界はグリーン化に向けたリーダー的役割を担うためのあらゆる利点を持っていると確信しています。自動車を発明した当社が、今度はそれを再発明しようとしています。今日、RWEとの協力のもと、私たちは未来に向かって重要な一歩を踏み出しました」と述べました。

DAGは自動車事業における豊富な経験、とりわけ電気駆動とバッテリー技術によるゼロ・エミッションの分野における長年の研究や開発活動を通して培った知識でこの共同プロジェクトに参画します。

「 e-mobility Berlin 」プロジェクトでは、電気自動車のスマートed (electric drive) とメルセデス・ベンツが使用されます。注目すべき点は、専用に開発されたリチウムイオンバッテリーです。従来のバッテリーと比べて、航続時間が長く、充電時間も短くて済むうえ小型化、軽量化を実現することができます。DAGでは、このリチウムイオンバッテリーの生産を、メルセデス・ベンツのハイブリッド車 S 400 BlueHYBRID用に、来年より生産を開始する予定です。

RWE—約500ヶ所の充電スタンドによる供給ネットワーク

RWEは、「 e-mobility Berlin 」で充電インフラの開発、設置、運用を担当します。大規模なプロジェクトに向け、約500ヶ所の充電スタンドをベルリン市内に設置しています。また、この規模は徐々に拡大する可能性もあります。両社は力を合わせて自動車と「充電スタンド」の革新的なインターフェースを必要に応じて提供し、ユーザーフレンドリーで便利な運用を目指します。これはまだ初期段階ですが、すでに次のステップに向けた計画もあります。対応するバッテリーが利用できるようになると、車に貯蔵されたエネルギーが逆に供給ネットワークに供給できるようになります (vehicle-to-grid)。つまり、未来の車載バッテリーは需要の低い時には電気を貯蔵し、需要の高いときには電気を供給することができるのです。このため、両社の取り組みはオープンスタンダードに基づいており、今後の共同開発では他社との連携も希望しています。

RWE AGのグロスマンCEOは、「充電スタンドは顧客の家、職場、公共駐車場に設置します。さらに、ショッピングセンターや駐車場事業者、フリート顧客などの提携先もこのインフラに組み込むことができるでしょう。また、このシステムは携帯電話と同じぐらいシンプルで便利なものでなければなりません」と述べています。

電気自動車の生産は2010年に開始予定

この新しいプロジェクトには、現在ダイムラーがロンドンで行っている電気自動車の普及に向けた試験的なプロジェクトで培ってきた経験も生きています。ロンドンでは、去年から警察などの関係当局により、第一世代のスマートフォーツーエドの試験導入が行われています。

「e-mobility Berlin」は明るい未来に向けた第一歩です。このプロジェクトは、世界中の大都市で行われている同様のプロジェクトや、2010年に予定されているメルセデス・ベンツならびにスマートのバッテリー駆動自動車の生産開始にもはずみをつけるでしょう。DAGのアプローチでは、車両の全ライフサイクルをカバーする標準化・統合されたプロセスを目指しています。このサイクルに自動車のあらゆる部品の開発、製造、運用、リサイクルが組み合わされてはじめて、環境の面において総合的なバランスを達成することができるのです。





ベルリンの発表会場

(左より)ダイムラーAG 会長 D. ツェツェ、独首相 A. メルケル、RWE AG CEO J. グロースマン、
ドイツ自動車工業会 会長 M. ヴィスマン